

電気加工国際会議 [略称 ISEM 9]

社団法人電気加工学会当該国際会議組織委員会
(東京大学生産技術研究所 教授)
組織委員長代行 増沢 隆久
(昭和62年度国際会議等開催準備助成 AF-87027)

1. 開催日時：平成元年4月10日～4月14日
2. 開催場所：名古屋
3. 会議開催に対する成果：

社団法人電気加工学会の主催による電気加工国際会議 (ISEM 9) は、平成元年 (1989年)4月10日より4日間名古屋市において開催され、海外からの50名余を含む400名近い参加者を得て、盛会裡に終了した。

この国際会議は電気加工を主題とする国際会議として我国では初めてのものである。電気加工学会設立頭初より何度か国際会議開催が話題となって来たがちょうど学会として創立20周年を迎えることとなり、また日本の電気加工、特に放電加工技術が世界的にも主導的なレベルに高まって来たことから、開催の機運が盛り上がった。一方で、3年毎に世界各地で開催されてきた国際電気加工シンポジウム (ISEM, Internatinal Symposium for Electro-Machining) の第8回目がモスクワで開催された際に、第9回目の日本での開催を希望する各国の意向が示された。こうした状況から、電気加工学会の創立20周年を記念し、併せて、第9回のISEMを招致する形で電気加工に関する国際会議を開催する運びとなった。開催地には頭初東京、筑波、京都等も話題にのぼったが、ちょうど市制施行100年を迎えた名古屋市から地元での開催を歓迎するとの意

向が示されたこと、また全国に分布する会員を持つ学会としても地理的に好都合であることなどから名古屋市で開催することが決定された。

当学会としては初めての国際会議主催であること、またISEMとしては初めてのヨーロッパ以外の地域での開催であることなどから、組織委員をはじめ学会員は多くの問題点の解決に骨を折ることとなったが、これらの作業は関係者の献身的な努力、協力により着実に遂行された。

当初最も懸念されたのは、日本が遠隔の地であることから、欧米からの参加者が少ないのではないかという点であった。しかし、この懸念は杞憂となり、結果的には多くの国から多数の参加があり、過去8回のISEMと比較しても最大級の参加国数となった。

国際会議参加の概要は次の通りである。

- 1) 会期 平成元年(1989) 4月10日(月)～4月14日(金)
- 2) 会場 愛知県産業貿易館、ホテル・ナゴヤ・キャッスル
- 3) 参加者数 371人 (内 同伴者 12人)

(内訳)

個人登録参加者	167人 (+同伴者 10人)
日本人	121人 (+同伴者 5人)
外国人	46人 (14ヶ国、+同伴者 5人)
法人参加	104口
23企業	74人 (+同伴者 2人)
招待参加者	30人
スタッフ参加者	68人
その他	20人 (含プレス関係)

(国別個人登録参加者数)

ベルギー	中国	チェコ	英国	西ドイツ	オランダ
1	12	3	4	3	2
ポーランド	シンガポール	スペイン	スウェーデン		
2		1	2	2	
フィンランド	スイス	アメリカ	ソ連	日本	合計
1	3	1	9	121	167人

4) 論文発表関係

アブストラクト	149
論文提出数	113
採択件数	106
発表件数	76

加工という地味な分野であるが、世界各国から最新の研究が多数発表され、また会社見学、国際的な親交を深めるための行事等も企画され、参加者からは過去最高との賛辞も少なからず寄せられた。一方、参加希望を表明しながら国情、経済状態等により来日を断念したという例がいくつかあったのは唯一の心残りな点であった。

経済的においては、天田金属加工機械技術振興財団をはじめ、多くの団体、地方自治体から有形、無形の援助があり、これが本国際会議が成功を収めるための重要な支えとなったことを記して謝意の表明に代え、本報告の結びとしたい。